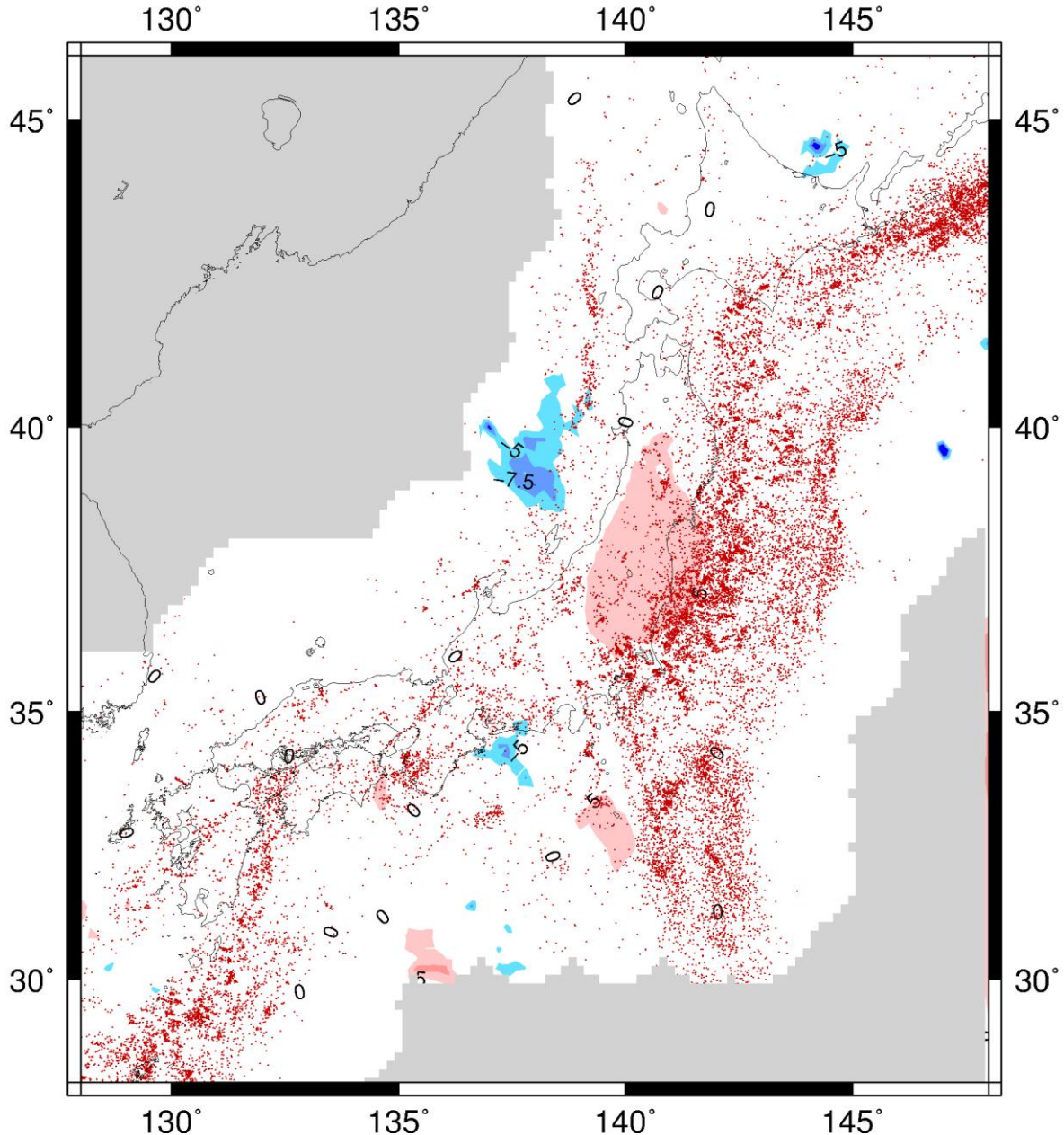


日本列島広域の地下天気図

およそ2ヶ月ごとにお知らせしております日本列島全域の地下天気図です。下の図は2015年2月20日の時点のものです。現在注目していますのは秋田沖と九州南方（なぜ九州南方かは過去のニュースレターを参考にさせていただく必要があります）。

<http://www.sems-tokaiuniv.jp/DuMA/DuMAnews20141225.pdf>

です。上記ニュースレターの情報を合わせてご覧ください。

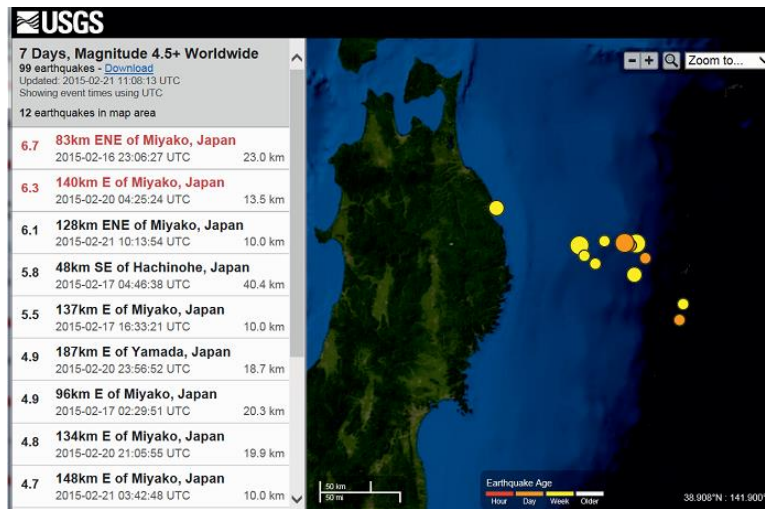


2月17日に岩手沖で津波注意報が発表された地震があり、私どもの共同研究者であるロシア科学アカデミーの研究者から、中期的（今後3年）の予想が送られてきました。ロシアおよびUCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）で開発されたM8というアルゴリズムで岩手県宮古沖の地震活動が、彼らの手法で、「明確な異常が観測された」という基準を岩手沖で満たしたとの情報を得ました。規模としてはマグニチュード7.5から8の地震が青森沖・十勝沖で発生する可能性が高まったというものです。もちろんこれは短期予知ではありませんが、ロシアだけでなく、北海道大学の研究者からも同じ場所で

地震活動の異常が存在するという報告が先日開催された地震予知連の会議で報告されています。つまり全く独立の2つの方法で中期的（～3年程度）に津波を伴う地震が青森・十勝沖で発生する可能性が高いという情報です。予知連での北海道大学の報告は半年後位に国土地理院のウェブページに掲載されるはずですが。

このM8アルゴリズムにつきましては、<http://www.sems-tokaiuniv.jp/2014M8/> で解説しております。

今回の予測は2月17日以降のまとまった地震活動で、M8アルゴリズムで「短期間で相当規模の地震が集中して発生した」という基準を見たし、発令されたものです。我々としても地下天気図の手法を適用して、青森沖・十勝沖には今後も注意して解析していきたいと考えています。



ロシア科学アカデミーのグループが「地震活動の短期的集中」と判断したデータの一例